Reto / 1550 clated Reposit	ory of Academic resources				
Title	エヤル・ヴァイツマン『フォレンジック・アーキテクチャ』の時間論的検討				
Sub Title	A temporal analysis of Eyal Weizman's Forensic architecture				
Author	近森, 高明(Chikamori, Takaaki)				
Publisher	慶應義塾大学				
Publication year	2022				
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)				
JaLC DOI					
Abstract	エヤル・ヴァイツマンが主導する「フォレンジック・アーキテクチャ」は、痕跡をもとに暴力の場面を建築的手法で再構成する活動だが、その事例分析に含まれる論点は、モノにアクターの役割を認めるアクターネットワーク理論をはじめとする近年のニューマテリアリズムの動向に合致し、インブラなど物的次元に照準する都市分析の方法を検討するうえで示唆に富む。本研究課題では、空間的次元が注目されがちな「フォレンジック・アーキアクチャ」の時間的次元に着目し、時間論的観点からその手法を再構成することで、極小と極大の時間的スケールを総合的にとらえ、都市と自然を連続的に把握する新たな都市分析の枠組みを構築することを目的とした。本年度におこなった具体的作業は以下の通りである。①『フォレンジック・アーキテクチャ』のテクストに含まれる時間に関連する語彙(速い/遅い、ビフォー/アフター、持続、変容、スプリット・セカンド、等々)が登場する文脈を網羅的に調査し、全体の布置を整理したうえで、専例研究として相模原市橋本という場所を選び、技術社会史的な観点から、インフラを構成要素として含む景観を読み解く試みをおこなった。具体的には、国道16号線の渋滞地点であった「五差路」、大正期から電力の重要な中継地であった「橋本変電所」、そして建設途中の「リニア中央新幹線中間駅」という三つの中継的インフラの重なりが、いかなる特徴をもの景観を生み出してきたかを検討した。②いつではいてのこつがあげられる。①山口大学時間学研究所が監修する『社会学の構築』シリーズに、本研究課題の理論的部分をまとめた論考を寄稿し、すでに出版された。②『大学的相模ガイド』という企画に、本研究課題の実証的・事例的部分をまとめた論考を寄稿し、現在、編集作業中である。「いまの企画に、本研究課題の実証的・事例的部分をまとめた論考を寄稿し、現在、編集作業中である。「いまの企画に、本研究課題の実証的・事例的部分をまとめた論考を表稿し、現在、編集作業中である。「いまの企画に、本研究課題の実証的・事例的部分をまとめた論考を表稿し、現在、編集作業中である。「いまの企画に、本研究課題の実証的ではではではではではではではではではではではではではではではではではではでは				
Notes	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				
Genre	Research Paper				
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-20210106				
	<u> </u>				

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 2021 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	300 (	(A)	千円
	氏名	近森 高明	氏名(英語)	Takaaki Chikamori		300 (	. <b>A</b> )	

## 研究課題 (日本語)

エヤル・ヴァイツマン『フォレンジック・アーキテクチャ』の時間論的検討

#### 研究課題 (英訳)

A Temporal Analysis of Eyal Weizman's Forensic Architecture

## 1. 研究成果実績の概要

エヤル・ヴァイツマンが主導する「フォレンジック・アーキテクチャ」は、痕跡をもとに暴力の場面を建築的手法で再構成する活動だが、その事例分析に含まれる論点は、モノにアクターの役割を認めるアクターネットワーク理論をはじめとする近年のニューマテリアリズムの動向に合致し、インフラなど物的次元に照準する都市分析の方法を検討するうえで示唆に富む。本研究課題では、空間的次元が注目されがちな「フォレンジック・アーキテクチャ」の時間的次元に着目し、時間論的観点からその手法を再構成することで、極小と極大の時間的スケールを総合的にとらえ、都市と自然を連続的に把握する新たな都市分析の枠組みを構築することを目的とした。

本年度におこなった具体的作業は以下の通りである。①『フォレンジック・アーキテクチャ』のテクストに含まれる時間に関連する語彙(速い/遅い、ビフォー/アフター、持続、変容、スプリット・セカンド、等々)が登場する文脈を網羅的に調査し、全体の布置を整理したうえで、時間論的視座からその手法を再構成した。②この作業からえられた論点を実践的に応用すべく、事例研究として相模原市橋本という場所を選び、技術社会史的な観点から、インフラを構成要素として含む景観を読み解く試みをおこなった。具体的には、国道 16 号線の渋滞地点であった「五差路」、大正期から電力の重要な中継地であった「橋本変電所」、そして建設途中の「リニア中央新幹線中間駅」という三つの中継的インフラの重なりが、いかなる特徴をもつ景観を生み出してきたかを検討した。

具体的な成果として以下の二つがあげられる。①山口大学時間学研究所が監修する『社会学の構築』シリーズに、本研究課題の理論的部分をまとめた論考を寄稿し、すでに出版された。②『大学的 相模ガイド』という企画に、本研究課題の実証的・事例的部分をまとめた論考を寄稿し、現在、編集作業中である。

## 2. 研究成果実績の概要(英訳)

Forensic Architecture, led by Eyal Weizman, is a movement to reconstruct the scenes of violence using the techniques of architecture, and its theoretical perspective is instructive in constructing a new method of analysis of urban space focusing on the level of materiality and infrastructure, as it fits well with the recent tendencies of new materialism including actor network theory which admits an agency in material objects. The object of this study is to reconstruct the analytical method of forensic architecture in terms of temporal aspect, while it usually is seen from spatial aspect, in order to construct a new framework of analysing urban space that captures the different time scales from the maximum to the minimum.

The following works were committed. First, the contexts where the idioms connected with time appear were comprehensively surveyed in the text of Forensic Architecture and its analytical method was reconstructed in terms of temporality. Second, in order to apply the theoretical points practically, a place was chosen, Hashimoto in Kanagawa prefecture, and its landscape was analysed from the perspective of social-technological history of infrastructure. The focus was on a crossroad, a substation, and a station of linear motor car, which are all infrastructures that contain relaying and interconnecting characters.

#### 3.本研究課題に関する発表 発表者氏名 (著者・講演者) 発表課題名 (著書名・演題) 発表学術誌名 (著書発行所・講演学会) 学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月) 近森高明 フォレンジックスの複数の時間 と時間(時間学の構築 4)』恒星社 厚生閣 山口大学時間学研究所『現代社会 と時間(時間学の構築 4)』恒星社 2022 年 1 月